

市政執行方針

まちの未来を切り拓くために

3月3日から開催された市議会定例会では、工藤市長の市政執行方針演説や一般行政報告を行ったほか、3月補正予算及び新年度当初予算の審議が行われました。
※内容は一部を要約して掲載しています。
全文は、市ホームページをご覧ください。

はじめに

2期目2年目となる平成28年度は、1期目において積み残した課題と併せ、「市民が元気に暮らせるまちづくり」と、「このまちの新たな可能性に挑戦する」取り組みを加速させます。



本市の人口減少など直面する課題に更に迅速に、多角的な視点で、積極果敢に取り組むため、「組織・機構」の改革を実施します。

現・政策調整部を再編し、専任の部長を配置することにも、地域との協働を軸に、人口減少、雇用や医療問題など、「総合戦略」に掲げる重点課題解決に今まで以上に、積極的に機能させます。早期のサハリン航路再開に向け、民間の経営的視点から、航路の継続対策に機動的に対応するとともに、地元企業のサハリン貿易への新規参入支援などのため、第三セクターを設立します。

施策、医師確保に向けた対策などに活用します。

以上の点を踏まえ、平成28年度の主な施策について、4つの基本方針に沿って、述べさせていただきます。

① まちの可能性を実感し、未来を拓く市政

◆産業の自立化と振興

新たに水産加工関連企業に対する利子補給制度を創設するほか、水産技術の習得など、漁業者を目指す青少年の研修受講に対する補助を拡充します。

勇知地区における「総合農地防災事業」が、この度採択となりました。

新年度から概ね10年間の予定で、農業用排水路の整備改修、農用地の整地などを実施します。

◆国際化をめざした港湾の強化

道北地域と連携して、稚内港を核とするサハリンとの双方の貿易の実現に向けた取り組みとともに、サハリンプロジェクトに関連する外国船舶の稚内港への寄港・上架など、利用の拡大を働きかけます。

新たな輸送ルートとして注目されている北極海航路の情報を収集するほか、国内外の大型貨物船やクルー

ズ船の寄港が可能となるよう、稚内港の航路、泊地の増強に向け取り組みます。

◆未来志向のサハリンとの経済交流の拡大

本年度4回目となる「ユジノサハリンスク道北物産展」に加え、サハリンとの「商談会」の開催など、道北地域が一体となった取り組みを推進します。

また、サハリン友好都市3市との「経済交流促進会議」において、サハリン2の拡張工事や、コルサコフ港の改修など、新たなプロジェクトにおける、稚内港の活用や、船舶修理、燃料、食料の補給など、市内企業の参入が実現できるよう、積極的な意見交換を行います。

◆新エネルギーの推進と水素資源などの活用

環境との共存を基本としながら、引き続き風力発電事業を支援するとともに、我が国の気象条件に対応した風力発電の技術革新にも貢献していきます。

風力発電由来の水素の貯蔵、輸送など、将来的な水素ビジネスの創出に向け、国や関係する企業との連携、情報収集を進めます。

街路灯のLED化については、公共灯の進捗率が、現在26・4%となっております。

早期の完全実施を目指します。

また、防犯灯についても、引き続き各町内会のご協力をいただき、LED化を進めることで、「二酸化炭素の排出抑制に努めます。」

◆子育て環境の更なる充実

若い世代の子育てと、仕事の両立支援策として、保護者や、地域からも要望があった「病児保育」の実施に向け、施設建設に対する補助を実施します。

昨年12月、教育、福祉関係の代表者からなる、「稚内市子どもの貧困対策本部会議」から、子どもの貧困解消を目指した、18項目の提言をいただきました。

それを受けて、子育て家庭の経済的負担の軽減のため、平成24年度から本市独自で実施してきた小学生までの「医療費無料化」について、その対象範囲を更に、中学生までとします。

妊婦健診料の助成回数拡大するほか、特定不妊治療助成に対する年数制限を撤廃します。

「南地区活動拠点センター」が、6月にオープンします。子どもから高齢者まで、幅広い世代の皆さんが

気軽に集い、交流できる拠点施設として、また、地域で子どもたちの成長を見守る場として、活用していただくことを期待しています。

◆女性や若者の活力を活かしたまちづくり、元気な高齢者の社会参加への支援

今年度、女性グループのNPOによる多世代交流サロンが発足し、介護や子育てなど、さまざまな悩みを話し合う場となっております。

こうした動きをシニア世代にも広げ、それぞれの経験や資格を活かした「コミュニティビジネス」の創出など、多様な立場、世代の方々による地域活動、地域貢献を支援する、体制づくりを進めます。

若者が、身近な地域社会により関心を持ち、まちづくりに積極的に参加できる機会の創出と情報提供に務めます。

稚内北星学園大学の学生が中央商店街と連携し、まちづくりに参加する取り組みを文部科学省の補助事業の中で展開しています。

また、全国の学生や社会人を対象に、大学の校舎を利用したワークショップなども開催されており、大変、好評であると聞いています。

こうした特色ある試みが

芽を出し、大学としての存在感を高めることで、本市への若者の定着につながるよう、引き続き支援します。

◆誇りを持てる教育とスポーツの充実

私は、子どもたちに、「北方圏にあるこのまちだからこそ経験できた」、「このまちで、みんなが育ててきた」、そう思えるもの、そして、それが子どもたちの心の成長の糧、誇りとなりえるものを残したい、そう考えてきました。

本市の地形や、気象状況を考えたとき、その一つがカーリングであり、施設を整備することで、誰でも、いつでも、気軽に冬のスポーツが体験できるように

なります。

一方では、若者や小さい子どものお母さん、高齢の方々から、「冬でも土の上でスポーツがしたい」、「天候に関係なく体を動したり、遊べる場所がぜひ欲しい」、といった声もいただきました。

そうした思いを実現するため、旧大谷高校の校舎や跡地を再活用し、カーリング場をはじめ、老朽化しているノシャップ地区のス

ポーツセンター機能を移転集約するとともに、冬期間も野球、サッカー、パーク

も野球、サッカー、パーク